

COOメッセージ

社員の成長の最大化と トリシマの成長の最大化

— 1 on 1ミーティングを核としたポジティブスパイラル

03

05

ユーザー訪問記 209

日本最大級の 石油化学コンビナートで産まれる 暮らしを身近に支える化学製品

三井化学株式会社 市原工場



07

Project Highlights



トリシマで最大クラスの インペラ・排水能力



創業105周年記念式典

一人ひとりが
学び成長することで
私たちの未来を創る

代表取締役CEO 原田耕太郎

CEO MESSAGE

創業105周年記念式典 式辞

気象庁によると、先月は平均気温が統計史上最も暑かった去年を上回り、記録の残る126年間で「最も暑い7月」だったことが分かりました。2年連続で過去最高を更新するのも初めて。記録的に暑い日がこう続くと疲れの蓄積は避けられず、今は1年で心身の管理が最も大事な季節と言っても過言ではありません。

この暑さを吹き飛ばしているのが、パリ・オリンピック（8月末からはパラリンピック）。熱戦が繰り広げられ、日本中、世界中の人々を沸かせています。各国の1番の選手が集まりメダルを狙う厳しい中でも決して諦めない姿、限界



の中でも力を振り絞って前に進もうとする姿に、私たちは元気づけられます。苦しくても努力して学び成長する生き方。我々みんな、心の中で自分もそうありたいと望んでいるのではないのでしょうか。だからこそオリンピックに心を震わされ感動するのです。



社員活力の最大化



トリシマは今日、105周年を迎えました。「社会に欠かせない企業」をめざす基盤は『人』です。『社員活力の最大化』なくして成長なし。これからも、どんどん皆さんが自己研鑽投資をする環境作りを行っていきたい。そして、私たち一人ひとりの成長を原動力に、トリシマは世の中に貢献を続けます。
(2024年8月1日)

パーソル総合研究所が、世界18ヶ国の20代から60代の各1,000人に、働く実態や働く意識、働くことを通じた成長、グローバルな就業意向などを聞く「グローバル就業実態・成長意識調査(2022年)」を行っています。その調査の中に「あなたが自分の成長を目的として行っている勤務先以外での学習や自己啓発活動についてお知らせください」という設問があります。

「とくに何も行っていない」という人の割合は全体18ヶ国平均で18.0%に対し、日本は52.6%と最も高く、自己研鑽意欲の低さが際立ちます(他の国ではほぼ8割の人は何らかの自己研鑽を行っているのです)。勤務先で自己啓発を行っている、時間や余裕がないなど、いろいろなできない理由があるからだと思いますが、世界の中で自己研鑽意欲が突出して低い日本。『人』の成長が創る『未来』を想うと、とても心配な結果です。

Q. あなたが自分の成長を目的として行っている勤務先以外での学習や自己啓発活動についてお知らせください。

(複数回答/選択肢11項目)

※全体の回答で降順

	東アジア					東南アジア					南アジア	オセアニア	北米	ヨーロッパ					
	日本	中国	韓国	台湾	香港	タイ	フィリピン	インドネシア	マレーシア	シンガポール	ベトナム	インド	オーストラリア	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	スウェーデン	
全体	(18223)	(1000)	(1002)	(1005)	(1001)	(1002)	(1059)	(1010)	(1002)	(1000)	(1002)	(1119)	(1003)	(1010)	(1003)	(1000)	(1001)	(1002)	
読書	34.5	23.2	27.5	39.1	26.1	34.9	27.9	43.7	42.2	38.5	32.7	48.5	33.5	35.4	41.0	38.0	36.7	31.0	22.1
研修・セミナー、勉強会等への参加	30.4	11.6	27.4	21.6	26.1	23.7	28.0	50.4	50.1	44.7	33.9	41.9	43.6	25.1	27.2	22.7	27.0	23.3	18.0
資格取得のための学習	22.0	15.9	22.9	27.4	23.3	18.8	22.2	29.4	43.6	25.2	17.9	22.4	30.6	15.7	20.3	14.1	19.6	12.2	13.2
通信教育、eラーニング	21.8	7.1	32.9	9.8	26.8	24.2	30.0	28.1	18.8	26.7	21.7	29.8	30.7	17.5	20.1	20.1	14.9	15.6	15.3
語学学習	20.9	9.9	17.8	25.9	26.5	28.7	26.2	20.9	27.0	23.1	14.7	46.3	25.6	10.8	15.7	13.7	11.6	19.0	12.3
副業・兼業	19.5	8.9	14.7	15.4	20.3	18.6	33.9	31.5	27.1	29.5	13.6	25.4	26.8	14.3	20.6	12.2	12.1	11.4	13.4
NPOやボランティア等の社会活動への参加	17.0	3.4	12.3	8.4	12.4	11.3	18.3	25.1	37.5	21.7	14.2	24.1	31.4	12.0	17.7	15.2	12.3	12.6	14.1
勉強会等の主催・運営	12.8	2.9	18.1	9.6	15.3	10.2	13.7	11.8	13.1	18.9	9.9	19.7	23.4	8.4	11.9	9.2	12.6	11.5	9.5
大学・大学院・専門学校	8.1	1.7	5.9	3.5	7.2	5.3	5.6	13.8	10.8	14.8	7.4	5.5	13.0	8.3	12.5	4.5	11.2	4.9	10.5
その他	2.2	3.8	0.8	2.5	1.3	1.3	1.1	2.6	1.7	2.2	1.5	1.2	1.1	1.9	2.8	3.6	4.5	2.9	3.8
とくに何も行っていない	18.0	52.6	20.6	19.3	14.5	18.8	13.4	5.6	5.4	9.5	20.1	3.6	3.2	28.6	15.7	24.1	21.2	22.6	28.1





社員の成長の最大化と トリシマの成長の最大化

— 1 on 1ミーティングを核とした**ポジティブスパイラル**

取締役共同COO 羽牟 幸一郎

今年も社員みなさんのおかげで創業105周年を迎えることができました、ありがとうございます。いつもトリシマのポンプやサービスを使っているお客さま、トリシマと一緒に活動して下さる協力会社の皆さま、トリシマを応援・支援して下さるステークホルダーの皆さまがあつての105年です。

そしてトリシマをここまで発展させてくれた諸先輩方に感謝。私たちの現在の業績は過去の努力のうえに成り立っていることを改めて噛みしめました。社是、人、技術、お客さま、納入実績など多くのものを幾多の苦難を乗り越え残してくれています。

いま私たちが未来に向けて行うべきことも同じです。現在も含め20年、30年後のトリシマの土台をいま作ること。特に未来を担う人、時代に合わせ進

化を成し遂げられる人財をどれだけ創れるかが企業の存続を決めます。AIなどの発達もありますが、新たな商売のアイデア、技術のアイデア、企業文化の醸成、時代に合った企業の進むべき方向性を出すなど、これらは人が悩み考え抜き実行していくべきことです。

トリシマは数年前から「社員活力の最大化」を目標に掲げ、社員の成長と会社の成長のシンクロをめざし、人事制度改革や教育および外国人人財の活用を進めています。その中で今年度から本格的に進めている「1on1ミーティング」（以下、1on1）は社員活力最大化を達成するための重要な取り組みです。

1on1の目的は、簡単に言えば会社の持続成長のために、社員のやる気を引き出して成長を促すことです。会社にはそれぞれ目的や目標があり、その達成をめざして成果を上げ続けることが社員一人ひとりに求められています。

1on1は直接対話であり、会社の中では主に上司と部下との対話が多くなります。大切なことはお互いの信頼関係であり、両者が平等に腹を割って率直にものを言える雰囲気の中で、仕事やそれ以外についてもその意味や目的について意見を述べ合い共通の理解を作り出すプロセスこそが大切です。心理的安全性の確保が大切ですね。そして、仕事のプロセスや過程を定期的に振り返り、社員の皆さんの業務内容、能力や成長の度合いに応じて一方的に教えるのではなく、自分で考え行動できるようにサポートのやり方を切り替え、やがては自発的に行動できる人材を育成することです。社員の皆さんにとっては普段言いたいことを言えなかったり、あるいはいつも忙しそうなお上に声をかけづらかったりすると思います。基本的に1on1は社員の皆さんのための時間なので、遠慮なくいろいろなことを話してください。

また、トリシマではこれまで正式な人事評価面談は年に2回ありましたが、自己評価と最終評価に乖離が見られフラストレーションが高まるといったこともありました。1on1による対話でこれを解消しお互いが納得した評価を得ることができ、さらに上の目標をめざすことが可能になります。

1on1を続けることで社員と会社（部下と上司）間で理解が深まりポジティブスパイラルが発生します。ポジティブスパイラルとは、自分が求められてい

る役割を正しく認識し、より適切な行動ができる状況を表します。その結果、①仕事のパフォーマンスが上がり成功体験を共有できる、②お互いの信頼関係がさらに深まる、③フランクに話し合うことがより容易になる、④お互いの理解がより一層深まる、そしてまた①からのサイクルに戻っていきます。これが社員の活力が最大化され、企業の成長が最大化されるポジティブスパイラルです。

トリシマでは現在「Agile（アジャイル）」という活動も行っていますが、これも1on1に非常に近い考え方です。大きなプロジェクトを細かくして、小さな結果を出し、その結果の検証とプロセスをショートインターバルで見直し、修正し、改良していく。そして、さらに次の小さなプロジェクトを積み重ねて大きなプロジェクトを成し遂げていく、活動の本質は同じです。

風通しがよく自由でオープンな環境のもと、強固な信頼関係に支えられ、社員や会社の成長に資するアイデアを遠慮なく言い合い、その実現に向けて行動することが、おのずと高いパフォーマンスを出し続けられるのだと信じ続けています。

トリシマは、企業活動の中で社員の成長、すなわち1on1を徹底的に実施することを優先事項として取り組みます。「社員の成長＝トリシマの成長」

2024年度初めに2029年度の高い目標、10、100、1,000（営業利益率10%、営業利益100億、売上高1,000億）達成にむけて2024年度はGXとDXの二刀流と言いましたが、もう一本、刀を追加して「1on1」の3刀流で2024年度を皆さんと共に走りぬけましょう。

日本最大級の 石油化学コンビナートで産まれる 暮らしを身近に支える化学製品

三井化学株式会社 市原工場

三井化学株式会社の市原工場がある市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し県内では最も面積の広い市です。臨海部は千葉県の東京湾沿い浦安市から君津市付近まで広がる京葉工業地域の一部で、市内は姉崎海岸や千種海岸、五井南海岸を中心に日本最大規模の石油化学コンビナート群になっており、数多くの工場があります。このコンビナートは工場夜景都市としても人気が高く、日本11大工場夜景にも選ばれています。



プラント全景



同社市原工場は1967年3月に三井石油化学工業千葉工場として古くから操業を行っており、工場の中心にエチレンプラントを設置。そこからエチレン、プロピレンなどの基礎原料を各工場内のプラントへ供給し、樹脂および化成品などを生産するといった日本を代表する総合石油化学工場です。また、市原工場は同社のマザー工場として位置づけられており、人材供給、技術支援、教育支援、情報交換など、中国やシンガポールなどへ支援も行っています。

取材にご協力いただいた技術部機械グループ機械1チーム松尾様は、工場における中核である2UPCエチレンプラントをメインに管理されています。エチレンプラントは、分解炉の中で、主原料ナフサを約800°Cの温度で熱分解しエチレン、プロピレンなど石油化学の基礎原料を生成しており、工場の中でも重要な設備です。そのため、「日々安全、安定的なプラント操業に寄与できるよう、技術力の向上に努めるなど責任は大きいですが、やりがいのある仕事です」と仰っていました。

このエチレンプラントでは、スタートアップ時のコンプレッサタービン駆動用スチームを確保する目的でボイラが設置されており、そのボイラ給水ポンプとして1978年からトリシマ製ポンプが稼働しています。ボイラで作られた蒸気はエチレンプラントをはじめ、工場の各設備に



2UPCエチレンプラントで使用されているトリシマ製ポンプ



トリシマは今後も
三井化学のプラントを支える
パートナーとして技術を磨き
貢献していきます!



供給されます。ボイラ給水ポンプは設置されてから今まで45年以上もの間、重要機器として市原工場を支え、現在も大きなトラブルもなく安定した運転を継続しています。この安定した運転実績と高い技術力を評価いただき、最近では工場内のポンプの省エネ、最適化の検討によるエネルギー消費量の削減、脱炭素社会の実現に向けた取り組みにも携わらせていただいています。また、この市原工場での提案を発端に、三井化学の各主要工場へも同様な提案活動を展開しています。

私たちの身の回りには、三井化学で作られている製品が数多くあります。エチレンプラントでは、生成したエチレン、プロピレンが作られ、そこから、ポリエチレン、合成パルプ、ヘキセン、ポリプロピレン、フェノール、ベンゼンなどが作られています。なかでも、ポリエチレンとフェノールは最も身近な製品のひとつです。

ポリエチレンは、プラスチック素材の一種で合成樹脂に分類されます。大量生産が可能で、加工性、防水性、

ポリエチレン製品



耐薬品性に優れており、現代のプラスチック製品の多くに利用されている素材です。

フェノールは、フェノール樹脂、ポリカーボネート樹脂、エポキシ樹脂などのプラスチックの原料として使用される石油化学製品です。フェノール樹脂は鍋の取っ手や住宅用の断熱材などに、ポリカーボネート樹脂はDVDや車のヘッドライト、エポキシ樹脂は飲料缶のコーティングなどに使用されています。記載した以外にも、数多くの同社製品が我々の身近で使用されており、日々の暮らしを支えています。

最後になりましたが、取材をお受けいただきました技術部機械グループ機械1チームの齊藤様、松尾様、そして関係者の方々に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

(東京産業営業部 中野 幹大)



取材にご協力いただいた、技術部 機械グループ 機械1チーム 松尾 季様

Project Highlights

01

総合評価入札方式で 2つの排水機場向けポンプ設備工事を受注

九州農政局から西国東海岸保全事業 2・3号排水機場ポンプ設備製作据付工事を受注

今回受注した排水機場は、大分県の国東半島西側に位置する豊後高田市を流れる赤坂川の右岸・左岸にそれぞれ建設されます。二級河川の赤坂川が注ぐ周防灘は、遠浅で干拓に適した地域として昔から知られており、江戸時代中期から新田開発が行われてきました。この干拓地では、白ネギの栽培が盛んで西日本一の産地となっており、市町村別では全国2位の産出額を誇ります。

50年以上前に実施された国営西国東干拓事業では、堤防などの海岸保全施設が築造されましたが、老朽化が進行して維持管理に支障が生じるようになりました。さらに、激甚化している豪雨と既設の排水機場の能力低下が相まって、農作物の湛水被害などが頻発しており、地域住民の方々は不安な生活を強いられています。そこで、既設の排水機場に隣接して2号排水機場（呉崎）と3号排水機場（西真玉）が新しく建設されることになりました。

本工事の入札にあたっては総合評価方式が採用され、技術提案においては「ポンプ設備の操作管理を容易に行うための工夫」が課題として出題されました。トリシマは、顕在および潜在しているニーズに応える提案を行い、参加7社において最高得点を獲得して受注に至りました。

新しく排水機場が完成すれば、排水能力が回復して農地が守られ、地元農家の方々が安心して営農できるようになります。その明るい未来の実現に貢献するため、2026年3月の完成をめざして設計・製作が進められています。

ポンプ名称	2号排水機場（呉崎） 排水ポンプ	3号排水機場（西真玉） 排水ポンプ
口径・形式	SP1200	SP1200
台数	2台	2台
原動機容量	150 kW	150 kW



既設の排水機場

02

ポンプの更新、増設による排水量アップと 仮設ポンプに耐水モーター一体型ポンプを採用

大阪市東野田抽水所ポンプ設備工事を受注

JR大阪環状線を大阪駅から外回り（時計回り）で3駅目となる京橋駅は、京阪電気鉄道（京阪電鉄）、大阪市高速電気軌道（Osaka Metro）、JR学研都市線、JR東西線が乗り入れ、一日あたり約59万人が利用する一大ターミナル駅です。その京橋駅から徒歩5分のところに東野田抽水所（※抽水所はポンプ場のこと）があります。

本抽水所は1927年に建設された第一ポンプ室と1964年に建設された第二ポンプ室で構成されており、本抽水所がある都島区では「トヨクニハウス」と呼ばれる大阪最古のRC造集合住宅が知られていますが、第一ポンプ室はそれよりも古い建築物で玄関や窓枠には昭和レトロ感が漂っています。



その第一ポンプ室は建設から97年が経過して建物が老朽化しているため、第一ポンプ室のポンプ能力を第二ポンプ室に統合する計画となっています。第一ポンプ室には口径800mmのポンプが5台設置されていましたが、その能力は第二ポンプ室へ統合されます。

第二ポンプ室には、No.1～3雨水ポンプ（口径1200mm横軸斜流）、No.4雨水ポンプ（口径1000mm横軸両吸込渦巻）、No.5～7汚水ポンプ（口径700mm横軸両吸込渦巻）の計7台のポンプが設置されていますが、本工事でNo.4～7のポンプの更新とNo.8汚水ポンプ1台の増台を行うとともに、No.4雨水ポンプの排水量を1.6倍に増量します。これらの第二ポンプ室の排水量増加に伴い、関連工事では吸込水槽内の土木補強工事、第二ポンプ室から第一ポンプ室への流入路の拡幅工事、No.4雨水ポンプ～吐出会所までの配管工事など、複数の工事が輻輳する大工事となっています。

また、前述の土木補強工事を行う際には、第一ポンプ室の汚水ポンプが運転できなくなります。しかし、流域の生活排水を処理場へ送水するポンプが必要になることから、従来であれば仮設の水中ポンプを設置する必要がありますが、流量が多いため水中ポンプが大口径となり過ぎて設置ができません。陸用ポンプは水中ポンプと比較して設置スペースは小さくなりますが、屋外設置となり周辺が浸水するとポンプが水没して運転不能になります。そこで、本工事の仮設ポンプには、浸水時も運転が可能で設置スペースもコンパクトであるトリシマの新技术「耐水モーター体型ポンプ」を採用いただきました。

機場の機能を生かしたままでのポンプ設備取り替え工事となりますので、維持管理業務や関連工事との工程調整と安全管理が重要になります。現在は、2027年3月の完成をめざして、現地条件を反映した施工計画を策定するとともに、ポンプを含めた機器の設計・製作を全力で進めています。

ポンプ名称	No.4雨水ポンプ	No.5, 6汚水ポンプ	No.7, 8汚水ポンプ	仮設汚水ポンプ
口径・形式	SPGBV1000	CDM400	SPV500	SPV500-SM
台数	1台	2台	2台	5台
原動機容量	660 kW	55 kW	110 kW	100 kW

**このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
blankとさせていただきます。ご了承願います。**

04

大同特殊鋼株式会社 知多工場に TR-COMシステムを導入

b-Monitorを29個受注

大同特殊鋼株式会社は、デジタルデバイス関連、エネルギー関連、航空機関連、船舶関連などに使われる高強度で耐食性、耐熱性、切削性にも優れる特殊鋼を製造する大手特殊鋼メーカーです。同社の知多工場は、自動車向け構造用鋼をはじめ、ステンレス鋼、工具鋼、高合金まで幅広い特殊鋼を製造できる世界最高水準の特殊鋼一貫製造工場であり、生産規模、売上規模ともに同社最大の工場として常に技術革新を続けられています。また、環境に優しい製造プロセスの追求によって「グリーン社会の実現」に貢献していくためにCO₂の削減にも積極的に取り組まれており、既設の老朽化したポンプをトリシマのスーパーエコポンプに順次更新いただいています。

今回、生産設備の予知保全を目的にトリシマの回転機械モニタリングシステム「TR-COM」を導入いただきました。知多工場内の主要機器においては、既にオンラインでの常時監視を実施されていますが、それ以外の機器における監視方法も検討されていました。しかし、主要機器と同様の監視方法を採用するにはコストがかかるうえ、センサの設置も有線式であることから複雑になるため、他の監視システムの導入を検討されていました。そこで、無線式で設置が簡単、さらにFFTまで確認できる場所や振動スペクトルに変化があれば検出して通

知される点を高く評価され、トリシマの「TR-COM」を採用いただくことになりました。また、導入後に運用方法のレクチャーを行うなどアフターサポートがしっかりしているところも高評価をいただいています。

今回の振動監視の対象機器はブロワと油圧ポンプですが、他の機器や他工場の設備にも展開していただけるよう、今後もしっかりとフォローを行っていきます。



油圧ポンプに取り付けたセンサ (b-Monitor)

05

トリシマ史上最大口径(4,000mm)のポンプを受注

香港特別行政区政府渠務署のYuen Long Barrage Pumping Station向けに 雨水排水ポンプ6台を受注

トリシマの連結子会社であるTORISHIMA (HONG KONG) LIMITEDは、香港の河川および下水道の管理全般を担う香港特別行政区政府渠務署 (Drainage Services Department、以下DSD) 向けとして、元朗 (Yuen Long) 市街地に建設され

るYuen Long Barrage Pumping Stationの雨水排水ポンプ6台を受注しました。

近年、気候変動の影響により異常気象が頻発しており、元朗の比較的平坦な地形は高潮や暴風雨の際に洪水が発生す



るリスクが高くなっています。そこで、本ポンプ場などの建設を含む堰排水計画が立ち上がりました。本計画では、河川に防潮壁を設置して潮汐による逆流を防止し、河川上流から流れてくる雨水は本ポンプ場によって下流へ強制排水することで、元朗市街地の浸水被害を防ぎます。

今回の受注は、これまでのDSD案件を含む香港国内の豊富な納入・工事実績をはじめ、お客様のスペック要求に合わせて、高比速度の新水力開発とCFD解析による流路最適化を行い、また、吐出弁および逆流防止弁を不要とし、システムの簡素化によるメンテナンス性の向上を図るためにサイフォン式の吐出流路を提案するなど、お客様に寄り添った技術提案を積極的に行ったことを評価いただき、採用に結び付けました。

受注した雨水排水ポンプは、インバータモータと減速機を介して駆動するトリシマ史上最大口径4,000mmのポンプで、ポンプ場全体の設計排水能力は300m³/sになります。現在、2027年の完工をめざしてポンプの設計も始まっており、製造、モデル試験、実機組立、現地据付、試運転と続いていきますが、本ポンプが完成し活躍することによって、周辺住民が安心して生活できる環境の実現に貢献することが期待されています。

ポンプ名称	Main Pump
口径・形式	ISV4000
台数	6台
原動機容量	3,300 kW

06 アブダビ国営石油会社の海水処理プラント向けポンプを大量受注

Wave Project C1におけるフィルタレーション用ポンプなど計73台を受注

アラブ首長国連邦(UAE)は世界有数の原油産出国であり、1日当たりの原油の生産量は世界第7位を誇っています。このたび、同国に本社を構えるアブダビ国営石油会社(Abu Dhabi National Oil Company(略称:ADNOC))が進める「Wave Project C1」において、海水処理プラント向けにフィルタレーション用ポンプなど合計73台を受注しました。

「Wave Project C1」は、原油回収率の増加を図るために石油採取設備を建設するプロジェクトです。石油の採取方法はいくつかの種類がありますが、本設備では「水攻法」が採用されています。「水攻法」とは、石油を掘るために整備された井戸(油井)から水を油層内に送り込み、油層内の原油を水で押し出して採取する方法で、他の採取方法よりも容易かつ採取率が高いと言われています。しかし、水攻法は大量の水を必要とするため、水資源の管理が重要になります。そこで

本プロジェクトでは、海水を圧力水に使用することで、水資源が十分ではない中東でも水攻法での石油採取を実現します。

今回トリシマ製ポンプが採用される設備は、原油を押し出す水を海から取水し、ナノフィルター・ウルトラナノフィルターに通すことで塩分濃度を下げる海水処理プラントになります。さらに、他の案件ではありますが、処理された水を送水するポンプもトリシマが受注しました。

これらトリシマ製ポンプの活躍によって、同国の石油事業のさらなる発展に貢献することが期待されています。

ポンプ名称	NF HP Pump	Interstage Booster Pump	Seawater Feed Pump	UF Feed Pump	Deaerator Extraction Pump
口径・形式	CDM600×500	SPSY300×250	SPV1200	SPV1350	CDM700×600
台数	5台	10台	3台	3台	6台
原動機容量	4,935 kW	450 kW	1,200 kW	2,900 kW	750 kW

他46台



共用品推進機構 共用品研究所所長
後藤 芳一様

創業105周年記念式典

8月1日に本社工場ビル4階大ホールにて、創業105周年記念式典が開催されました。原田CEO式辞の後、優良従業員・永年勤続者が表彰されました。ご講演いただきました共用品推進機構 共用品研究所所長 後藤 芳一様、日立造船相談役 谷所 敬様には誌面を借りて厚く御礼申し上げます。



日立造船相談役 谷所 敬様

優良従業員表彰 ◆ グループ表彰

技術本部 研究開発部 研究開発三課

技術的に難易度の高い液化水素ポンプの開発に挑み、運転試験において、遠心ポンプとしては世界最大流量、最大圧力を達成しました。また、周囲の協力とチームワークで困難を乗り越え、技術的ブレークスルーを果たしたことは、トリシマ全体に勇気と活力を与えました。

薬師神 博一 澤村 和宏 倉田 直幸
田中 幸雄 野間口 慧 増田 直樹
烏田 豪



永年勤続者表彰

◆ 勤続20年

井上 智恵 木村 健治 井伊 秀樹
迫田 和幸 坂元 博紀 宮崎 真次

大阪府より「北部流域下水道事務所長 表彰」を受賞



トリシマが2021年10月から2023年5月に実施した「味舌ポンプ場(大阪府摂津市)ポンプ設備の改修工事」において、大阪府都市整備部が表彰する「大阪府北部流域下水道事務所長 表彰」を受賞しました。優良工表彰とは、大阪府都市整備部が発注する建設工事などで、特に優れた工事(業務)を表彰するものです。

この受賞は、本工事の担当である現場代理人の亀山 公生氏、監理技術者の松尾 康秀氏の精励によるものです。



高知市より「優良建設工事施工者表彰」を受賞

高知市より、2022年8月から2024年1月にトリシマが施工した「大津雨水ポンプ場No.4ポンプ機械設備工事(R4-1)」が、2024年度高知市優良工事として選ばれました。本工事は、監理技術者・現場代理人の山口 進之助氏が担当し、建設工事の施工が特に優秀だと認められたことによります。



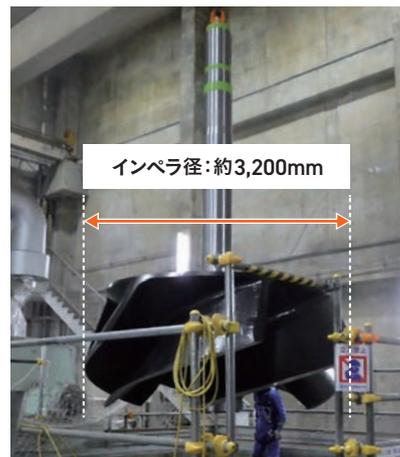
佐賀県より「知事表彰および優秀技術者等表彰」を受賞

佐賀県で「建設業者の意欲の増進や技術の向上を図り、社会的評価を高めて建設産業の健全な発展に資すること」を目的に、他の模範となる優良工事の表彰が行われ、2022年8月から2024年2月にトリシマが施工した「廻里江川右岸排水機場河川メンテナンス工事のポンプ更新」において、知事表彰を受賞しました。また、その工事の技術者として携わった山口 大二朗氏が優秀技術者として表彰されました。



トリシマで最大クラスのインペラ・排水能力

埼玉県川口市にある芝川排水機場において、1974年から49年もの間、運転していた排水ポンプ(CFV3000:立軸渦巻斜流ポンプ)の回転体を更新しました。このポンプはコンクリートケーシングで、ポンプのインペラ径、排水能力としてはトリシマで最大クラスです。吐出し量は毎秒20m³で、例えば25m×12m×深さ1.0mのプールの水を15秒で排水します。



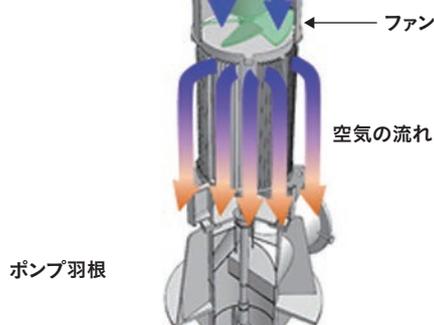
耐水モーター 一体型ポンプとTR-COMが国土交通省の下水道技術海外実証事業 (WOW TO JAPANプロジェクト) に採択



耐水モーター一体型ポンプ

国土交通省が行う2024年度、下水道技術の海外実証事業「WOW TO JAPANプロジェクト」に、トリシマの提案した「熱帯地域での空冷式耐水モーター一体型ポンプに係る実証事業」が採択されました。「WOW TO JAPANプロジェクト」は、海外諸国のニーズに適った技術の実証試験を通じ、技術の適応性・有効性を確認するとともに、現地関係者に技術の理解醸成を図り、日本の下水道技術の普及をめざすことを目的として国土交通省が推進するプロジェクトです。

耐水モーター



ファンを使った空冷システム

このたび採択された実証試験では、パキスタンの下水ポンプ場で、日本とは異なる高温の気候で要求されるポンプ・モーターの耐熱・冷却性能を、トリシマと日本テクノ共同事業体が確認します。あわせてトリシマのTR-COMシステムによるDX/ IoT技術を使ったリモートモニタリング・保守点検支援の有効性も確認します。浸水被害が常態化している南アジアを含む熱帯地域において、ポンプが現地条件へ適応し、長期運転による信頼性を示すことが期待されています。

奨学金返還支援制度を運用開始

月1.5万円を上限とし、最長15年で計270万円まで支援



トリシマは、奨学金を返還している社員の経済的・精神的負担を軽くし、安心して働くことができるように、この6月から奨学金返還支援制度の運用を開始しました。本制度は、奨学金を返還中の社員に対して総額270万円を上限に、最長15年間にわたって支援を実施するものです。在学中に奨学金の貸与を受けていた社員にとって、長期間にわたる返済は経済的・精神的に大きな負担です。今回の支援制度を通じて、トリシマを支える社員が安心して働くことができる職場づくりを推進し、優秀な人材の確保・定着とともに、企業の持続的な成長につなげます。

●対象者

新卒、キャリア採用の正社員で
奨学金の返済残額を有し、かつ本人が返済を行うもの

●対象奨学金

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構が貸与する奨学金
- 2) 一般財団法人あしなが育英会
- 3) その他会社が適当と認めた奨学金

公益社団法人日本将棋連盟から 感謝状を拝受

谷川十七世名人をはじめとした日本将棋連盟と高槻市 街にぎわい部の方々が、5月27日にトリシマ本社を訪問され、感謝状を受けました。高槻市は日本将棋連盟とタッグを組んで2021年より「関西将棋会館建設プロジェクト」に挑戦しており、トリシマはふるさと納税を通じて支援しています。

本プロジェクトは、現在、大阪市福島区にある関西将棋会館を2024年秋に高槻市芥川町、JR高槻駅近くに移転する計画です。また高槻市では、「将棋のまち高槻」として、世界に誇る将棋文化を次の100年に繋ぐべく、市内在住の小学一年生を対象に将棋駒の配布や棋士、女流棋士による出前授業などさまざまな取り組みが行われています。

当日は、谷川十七世名人より将棋への熱い想いや今後の取り組みについてお話を聞かせていただき、和やかな雰囲気の中、原田CEOからもトリシマの仕事や高槻市との関わりについてなど、さま



ざまな意見を交わしました。最後に「清流無間断(せいりゅうにかんだんなし)」と書かれた谷川十七世名人直筆の色紙をいただき、全員で記念撮影を行いました。

清流無間断…清い流れが絶え間なく流れるように、常に活動をしているものは、よどみがなく清らかである。不断の努力を意味するとも言われている。

アジャイル Agile開発事例共有イベントを開催

三菱電機株式会社、コニカミノルタ株式会社の方々とトリシマ本社工場ビルにお招きし、Agile開発事例の共有・情報交換イベント「Agile KANSAI Meetup」を5月29日に開催しました。

Agile(アジャイル)開発とは、ある1つの大きなシステムに対し、



優先度の高い機能から順に開発を進めていき、開発した各機能の集合体として1つの大きなシステムを形成するものです。初めに1つの大きなシステムの細部まで決定してから1度に開発を進めるのとは違い、すべての機能が完成しなくても早い段階からシステムを提供でき、仕様変更に対しても柔軟に対応できるという特徴があります。ソフトウェア開発の分野でよく使われますが、**組織の在り方や経営の考え方、仕事の進め方にもAgileの考え方が用いられます。**

トリシマでは2023年7月よりプロジェクトチームを作り、Agile開発を実践しています。今回のイベントは、関西でAgile開発を実践している企業と、継続的なコミュニケーションを図り、組織の枠を超えて学び合うような関係を作ることを目的に開催されました。各社がAgile開発に取り組んだ事例を発表した後、数チームに分かれ、さらに聞きたい事例についてディスカッションしました。参加した方からは「他社事例や実践者の生の声が聞けて勉強になった」「悩みや困った事を共有できて良かった」「解決の工夫を聞けて学びになった」「新しい視点を得られた」「新たな人脈ができて嬉しい」などの感想をいただきました。

前期技能検定を実施

7月27日、2024年度前期技能検定のうち、機械加工(普通旋盤作業、数値制御旋盤作業、数値制御フライス盤作業)の1職種3作業と仕上げ(機械組立仕上げ作業)の実技試験が本社工場で行われ、20名が受検しました。

また、7月21日、8月25日には casting(鋳造(鋳鉄鋳物鋳造作業))の実技試験が行われ、5名が受検しました。学科試験は8月25日と9月1日に行われる予定で、合格発表は10月4日です。



数値制御フライス盤(手前)、数値制御旋盤(奥)

ワーク・ライフ・バランスだより



1 仕事と介護の両立支援セミナーを開催

社員の仕事と介護の両立支援を目的として「仕事と介護の両立支援セミナー」が6月12日に開催され、「家族の介護に対するこれからの向き合い方」「介護に向けての事前準備」などについての講演がありました。当日は、対面・WEB参加合わせて、56名の方にご参加いただきました。



▶ 家族の介護に対するこれからの向き合い方

65歳以上で介護が必要な人
5人に1人

2025年問題

介護離職数
年間10万人

介護平均期間
約5年

介護は他人事ではなく、また長期にわたる可能性もあり、仕事との両立は簡単ではない

家族だけで抱えない

実務は介護のプロに上手に頼り、家族は**マネジメント**に徹する
「介護を受ける家族」と「介護を支援する自分」
両方が幸せになる介護環境を考える

▶ 介護に向けての事前準備

不安があれば
地域包括支援センターに相談

- ・全ての市区町村にあり
- ・地域に住む65歳以上の高齢者とその関係者は利用可
- ・電話相談でOK
- ・専門家より適切なアドバイスがもらえる
- ・早めに相談することでスムーズに支援を受けられる

公的介護保険制度、
民間介護保険について知る

介護費用は介護状況や利用サービスによって大きく異なる。それぞれのメリット、デメリットを知った上で、「介護の際に受けたいサービス」と「現在負担できる保険料」を勘案し、決めることが大切。

会社の介護支援制度に
ついて知り活用を検討する

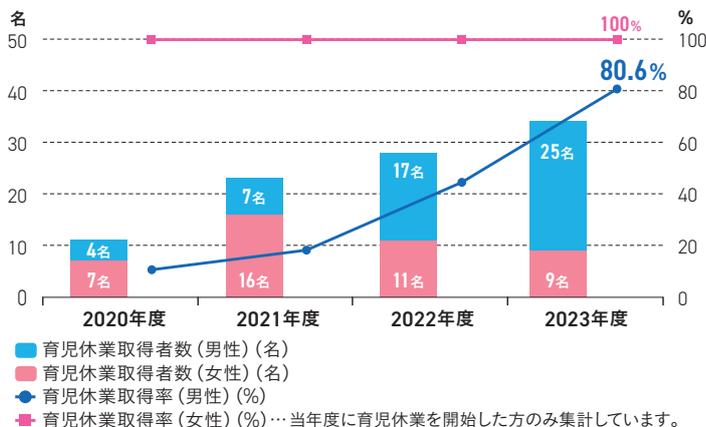
- ・介護休暇制度
- ・介護休業制度
- ・短時間勤務
- ・マルチシフト勤務
- ・まずはHR部人事課に相談

参加者の声

- ・予想よりもお金がかかることがわかり、改めて準備しておく必要があると認識しました。
- ・講師の方の実体験を交えながらお話いただいたのがよかったです。
- ・短時間でわかりやすくまとめられていたので良かった。
- ・介護を考えていこうかなという段階の方には良いと思います。
- ・周りの人たちも介護について考えていることがわかって良かったです。

2 2023年度の育児休業取得率

2023年度の男性の育児休業取得者は前年より8名増加し、育児休業取得率は80.6%、平均取得日数は77.1日となりました。育児休業取得率は、2030年3月期時点で100%をめざしています。女性の育児休業取得率は毎年100%を達成しており、2023年度の平均取得日数は325日でした。



■ 非財務情報の確認方法

トリシマのウェブサイトでも育児休業取得率などの非財務情報をご覧ください。

www.torishima.co.jp/ir/results/esg/



株式会社 西島製作所 本社/工場：大阪府高槻市宮田町1-1-8
TEL：072-695-0551 [大代表] www.torishima.co.jp

トリシマは大阪・関西万博の会場整備参加に
ブロンズパートナーとして協賛しています



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025



©Expo 2025